

病院を受診された患者さまへ

当院では機関長の許可を得て、下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名 (研究番号)	沖縄における小児腎疾患患者の臨床的特徴、治療および予後の検討
当院の研究責任者 (所属)	中西浩一（琉球大学大学院医学研究科育成医学（小児科）講座）
他の研究機関および 各機関の研究代表者	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター（研究代表者：泊弘毅） 那覇市立病院（研究代表者：徳永孝史） 沖縄県立中部病院（研究責任者名：荒木かほる） 沖縄県立八重山病院（研究責任者名：泊弘毅） 沖縄県立宮古病院（研究責任者名：武富博寿）
本研究の目的	<p>小児期に発症する腎疾患は、腎炎、ネフローゼ症候群、先天性腎尿路異常などがあげられます。その多くは学校検尿を契機に診断され、早期介入が可能であるため、わが国の人口あたりの小児末期腎不全患者数は、先進諸国と比較して少ないと報告されています。さらに、近年本邦では小児腎疾患関連のガイドラインが相次いで作成されており、日本全国どこでも標準的な診断、治療が受けられるようになってきています。</p> <p>一方で、これまで沖縄県における小児腎疾患の実態についての調査がなされておらず、沖縄県での小児腎疾患の特徴や治療への反応性、長期予後等は不明でした。そこで、沖縄県における小児期発症腎疾患患者の背景情報、治療情報、予後等に関する情報を収集し、臨床的特徴、治療実態、治療効果について検討を行うことで、沖縄の小児腎疾患の現状を把握することとしました。</p>
研究実施期間	許可日～ 2026 年 3 月 31 日
調査データ(該当期間)	2025 年 12 月までの情報
研究の方法 (利用する試料・情報等)	<p>●対象となる患者さま</p> <p>① 琉球大学病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、那覇市立病院、沖縄県立中部病院、沖縄県立八重山病院、沖縄県立宮古病院において、2025 年 12 月 31 日以前に小児期（16 歳未満）発症腎疾患患者として診療歴のある患者さま</p> <p>② 腎疾患は腎炎（IgA 腎症、紫斑病性腎炎、膜性腎症、膜性増殖性糸球体腎炎、ループス腎炎、C3 腎症、アルポート症候群など）、ネフローゼ症候群（微小変化型、巣状分節性糸球体硬化症など）、先天性腎</p>

	<p>尿路異常（多嚢胞性異形成腎、常染色体優性多発性嚢胞腎、常染色体劣性多発性嚢胞腎、逆流性腎症など）などを含む</p> <p>●利用する試料・情報</p> <p>診療録より、生年月、性別、既往歴、家族歴、初発時先行感染の有無、処方薬、診断名、遺伝学的検査結果、治療歴、有害事象、腎代替療法導入日、身長、体重、血圧、腎超音波検査所見、血液検査所見、尿検査、腎病理組織所見など</p>
<p>試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法</p>	<p>研究において対象者の情報を扱う際は、各施設において個人情報とは関係のない符号または番号を付して匿名化し、対応表を作成します。各施設間では匿名化後の情報のみの提供を行い、対応表は各機関の責任者が保管し機関の間で授受は行いません。</p>
<p>試料・情報の二次利用</p>	<p>本研究で取得した情報は、別の新たな研究に利用する可能性があります。その場合は、再度、倫理委員会へ申請し研究機関の長の許可を得ます。</p>
<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>研究において対象者の情報を扱う際は、個人情報とは関係のない符号または番号を付して匿名化します。論文作成時、学会発表時には個人が特定できる情報は一切用いません。また、研究の範囲外において情報の利用を行いません。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>なし</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>電話：098-895-1154 担当者：琉球大学大学院 医学研究科 育成医学（小児科）講座 中西浩一</p>
<p>備考</p>	